親しく正しく和かに
当山先々代三吉日照上人の提唱による当山スローガンです
揮毫＝大本山本興寺御閑士大平日晋上人

季刊『寺楽寿』は東京都世田谷区北烏山の法華宗（本門流）
本覺山妙壽寺が発行する寺報です。
檀信徒の皆さまをはじめ、妙壽寺にご縁のある皆さまに
広くお読みいただければ幸いです。

寺楽寿（てらす）

No.37
令和元年６月１日発行

本覺山　妙壽寺〈法華宗（本門流）〉
〒157-0061　東京都世田谷区北烏山５-15-1
電話 03-3308-1251　FAX.03-3308-7427
ホームページ　http://myojyuji.or.jp

無縁社会と寺縁（じえん）その33

新元号「令和」の元年を迎え、２カ月余が経過致しました。皆様には、清新なお気持ちにてそれぞれのお仕事、職場、活動においてご活躍のことと存じます。日本の長い歴史の中で、私共が元号を持つことは、とても大きな意味があると思います。私共の祖先がある時は平穏に、ある時は災害の中で、そしてある時は戦乱を超えて今日の私共に命や形あるものを伝え、継ぎ伝えて来たことは、とても未曾有で稀有なことと感じる次第であります。

平成の最終月26日、数十年ぶりに奈良を訪れ、奈良国立博物館で開催中の藤田美術館展「曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき」を鑑賞して参りました。藤田美術館は、初代館長藤田傳三郎が明治維新の廃仏毀釈によって疲弊した仏教寺院の宝物が海外に流出することを防ぐため、私財を投じて経典・仏画・仏像・絵巻・仏教工芸・考古資料など約二千点を収集したものであります。

仏教伝来以来今日に至るまでの仏教史を考える時、明治初年の神仏分離、廃仏毀釈はまさに仏教そのものの危機であったと思います。それは、150年前のことであり、今日の我々に多くの変化を及ぼした時期であります。

明治維新の当時の急激な弾圧と、現在の緩やかな仏教寺院離れの危機は、急病と慢性病の違いのようではありますが、永い歴史の中で、現在の状況も大変厳しいものがあると再認識した次第です。仏教が真に人々から求められ、また、仏教に携わる我々が真に人々の悲しみや苦しみに寄り添うことができるか、その真価が問われていることにかわりはないと思います。

新しい令和の時代に、仏教の本質を尊びつつ新たな展開を目指して行くことが大切であると改めて思い至る今日この頃です。

鴉　鵠

4月20、21日、境内を彩る満開を迎えたつつじ祭り

回向と祈願

３月、４月には各所に詣でて
仏教寺院の務めである回向と祈願を行いました。

３月10日 東京大空襲慰霊供養　於 両国・東京都慰霊堂

３月11日 法華宗東日本大震災追悼慰霊法要
於 宮城県多賀城市七ヶ浜町 蓮沼苑

４月11日 法華宗千鳥ケ淵戦没者慰霊法要　於 千鳥ケ淵戦没者墓苑

寺日記（てらにっき）

●２月11日　楫山（すぎやま）家（福岡県妙法寺檀家）地鎮祭（杉並区永福町）

●３月１日　興隆学林卒業式・学務協

●３月５日　板橋・龍光寺山川亮光上人遷化
当住上人興隆学林同期同窓の山川亮光上人（秀光院日亮上人 67歳）が遷化されました。７日、８日に通夜・葬儀が執り行われました。

●３月10日　浅見春江氏逝去
当住久美夫人母堂浅見春江夫人（春照院眞室慈江大姉　85歳）が逝去され、15日、16日に通夜・葬儀が粛やかに営まれました。

●３月10日　東京大空襲慰霊供養（上記参照）

●３月11日　法華宗東日本大震災追悼慰霊法要（上記参照）

●３月13日　法華宗教学研究発表会
於 東京国際フォーラム
参加者98名

●３月16日　正隆会護国寺見学会（裏面参照）

●３月20日　春季彼岸会合同法要
晴天に恵まれた春分の日、400余名のお参りをいただきました。

●３月31日　徳島妙典寺輪番大法要・鐘楼堂落慶法要
晴れた空の下、平島盛龍上人念願の鐘楼が完成し、５年に一度の輪番法要に合わせて鐘楼堂の落慶法要が盛大に奉修され、撞き初めには大導師小西日遶猊下、平島住職、相談役國祐寺大平宏龍上人（興隆学林長）に続き、サプライズにて平島住職ご両親も撞き初めに指名されました。（裏面奉告文掲載）

●４月１日　伊賀上野・本門寺入山式
当住上人出役法華宗宗務院の元書記久永晃隆上人が伊賀本門寺に住職入山され、法華宗宗務総長二瓶海照台下より磐梧（けいばい）を受け取り、新住職となる法要が営まれました。

●４月11日　法華宗千鳥ケ淵戦没者慰霊法要（上記参照）

●４月13日　正隆会　20周年記念法要

●４月15日　当山歴代三上人祥月忌法要

●４月20日・21日　躑躅（つつじ）まつり　80余名観賞

●４月22日　淡交会関東第一地区協議会

●４月30日　浅見家埋葬式
久美夫人両親浅見眞高（第百ケ日忌　眞成院観翁徹道居士 93歳）・春江（第四十九日忌）夫妻の埋葬式が高尾山東京霊園において、厳かに営まれました。

●５月１日　新天皇即位・改元

●５月２日　淡交会東京第六東支部茶会
於 明治記念館

令和元年五月二日
東京第六東支部懇親茶会
濃茶席（鳳凰の間）
副支部長　主　三吉宗祥
待合床　一入茶碗画　伊東深水
本席　床　日蓮聖人　消息　五月十二日
（以下割愛）

●５月11日　三浦日脩先生お祝い会
元法華宗興隆学林長三浦日脩先生の「瑞宝双宝章」叙勲（長年の教誨師活動の功績）お祝いの会が京都桂・筍亭において和やかに開催されました。

●５月12日　岐阜円経寺入退山式
当住上人中・高校恩師の渡邉元秀先生は住職をご退任され、ご長男嗣法入山の式典法要が奉修され、祝賀会が盛大に催されました。

猿江別院御写経会のご案内

下記の日程で、各回13：00～19：00に開催いたします。
（開催時間内にお越しいただいて、それぞれのご都合に合わせてお帰りいただけます）

第９回　６月21日（金）
第10回　８月９日（金）
第11回　10月４日（金）
第13回　12月６日（金）

参加費▶500円
（御写経御手本・半紙・美味しいもの）
＊書道具（筆ペン）はご用意しております。

EVENT　行事催事のご案内

＊各催しは別紙詳細

正隆会秋のウォーク
城下町佐倉を巡る〈日帰り〉
鍋島客殿ゆかりの旧堀田邸見学＆佐倉市内散策
10月10日(木)
鍋島家の婚姻関係にある堀田家の上級和風住宅は鍋島客殿と類似点があることがわかりました。最後の佐倉藩主であった堀田正倫が明治23年に建て、重要文化財に指定されています。また、今も城下町の面影を残す街並みが魅力の佐倉市内のウォークをご期待ください。

竹灯籠能「羽衣（はごろも）」＆ 一之輔落語独演会
11月９日(土) 於　当山本堂
昔話の羽衣伝説をもとにした能です。物語も明るく清澄で、能の幽玄の美を体現している演目です。お楽しみに！

予告　今後の予定

●７月16日(火)	盂蘭盆施餓鬼法要　午後２時
●９月23日(月・祝)	秋季彼岸会合同法要　午前11時　午後２時
●11月３日(日・祝)	宗祖第七三八遠忌御会式　午後２時

当住上人の宗務院 DIARY

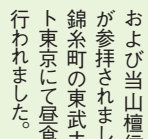
2/8, 3/6, 4/11 内局会議
3/ 6　各布教機関との連絡会
4/ 8　法華宗顧問会
4/11 報恩奉讃会総務会　責任役員会議
4/19 興隆学林後援会・理事評議員会
4/25 日蓮聖人門下連合会常任理事会
5/15 日蓮聖人門下連合会身延理事会
5/21 責任役員会
5/21～23 第74回定期宗会

■(公財)全日本仏教会＝全仏
3/4　第４回 記念誌編纂部会
3/13 仏教懇話会
4/24 第５回 記念誌編纂部会
5/14 第25回 理事会

■(公財)日本宗教連盟＝日宗連
2/28 第3回理事会
4/23 業務会計監査

■関係団体
4/18 同宗連総会
4/26 全日本仏教会青年会東大寺千僧法要

猿江▼猿江別院
４月５日　第８回写経会
５月７日　晴天のなか、恒例の猿江別院大祭法要が奉修され、近隣崇敬会氏子、および当山檀信徒40余名が参拝されました。法要後、錦糸町の東武ホテルレバント東京にて昼食・懇親会が行われました。



鵠沼▼晴明庵　**４月24日**　晴明庵第四世佐藤波法尼祥月命日忌法要および歴代婦人会追善供養が10余名にて奉修されました。無縁塔に詣でる小径には白藤、大紫躑躅（オオムラサキツツジ）が満開となっていました。

桑港▼日蓮教会　**４月７日**　カリフォルニアの青い空、その快晴の下、日蓮教会において40余名が参集して、春季彼岸会法要並びに釈尊降誕会花まつりが奉修され、階下においてポトラック（持ち寄り）の午餐会が賑やかに行われました。

正隆会【SHORYU-kai】

月例講ご案内

午後２時開催

当山では、毎月第２土曜日午後２時より月例講正隆会を開催しております。仏教や法華経についての勉強会や写経会、またウォーキング課外活動を行っています。檀信徒、ご友人となったでも参加できます。例会では、毎回１時半より正隆廟墓前法要を奉修しております。

６月８日(土)	写経会
７月13日(土)	興隆学林平島盛龍教授特別講義
８月	休講
９月14日(土)	勉強会「日蓮紀行」拝読５
10月10日(木)	課外活動「秋のウォーク」
11月16日(土)	写経会
12月14日(土)	三千遍唱題会・勉強会「日蓮紀行」拝読６
１月11日(土)	初題目・勉強会「日蓮紀行」拝読７

奉告文

維時平成三十一年三月三十一日桜花爛漫ノ候 此処ニ本化之霊場ヲ荘厳シ本門三秘ノ要法ヲ唱ヘテ宗祖奠定ノ御本尊ヲ勧請シ奉ル 仰ギ願クハ久遠実成本師釈迦牟尼世尊 證明法華之多寶如来 本化上行等ノ四大菩薩 法華守護之諸天善神殊而者末法下種之大導師高祖日蓮大菩薩 法華宗再興之唱導師日隆大聖人 當山開創日相大法師已来第二十二世恩師日南上人ニ至ル歴代之先師上人等知見照覧シ給ヘ 當ニ今厳修シ奉ル法要ノ意趣ヲ御宝前ニ告ゲ奉ル

夫レ顧レハ當山ハ草創已来法華本門ノ信行道場トシテ信心弘経ヲ専ラニシ寺門ノ興隆マタ見ルベキモノ有リ 而ルニ昭和二十年七月四日大東亜戦ノ戦火ニ罹リ伽藍寺宝等一切ヲ烏有ニ帰セリ サレド恩師日南上人之ガ再興ニ尽瘁 檀信徒ノ総力ヲ結集シ昭和二十七年宗祖開宗七百年ニ當リ本堂再建ノ偉業ヲ成満セラレタリ 然乍全檀信徒罹災セル中復興事業ハ流石ニ困難ヲ極メ充分ナル資材ヲ以テ再建ニ臨ムコト能ハザル結果初期ノ目標ニ達シ得ズ慚愧ノ念ヲ残サル、処也 サレバ小衲當山第二十三世ノ法灯ヲ継承スルヤ恩師日南上人ノ悲願完遂ヲ念ジ日々ニ祈リヲ重ネタル処 忝クモ仏祖ハ檀信各位ノ志念ヲ動カシ給ヒ 時ニ平成二十五年現本堂ノ建立ヲ見ルニ至ル 是レ正ニ感応道交ノ顕益ト云ハズンバ有ルベカラズ

然ルニ現下一般ノ世情ヲ窺フニ人心ノ乱レ甚ダシク日々ニ見聞セル凄惨極マリナイ事件ノ数々ハ耳目ヲ驚動セシムルニ余リ有リ 其ノ源ヲ尋ヌルニ人ノ悪業ハ無明煩悩ヨリ起ルトハ是レ仏陀ノ誡敕也 是ヲ又権門ノ流布延イテハ宗教心ノ欠如ニ其ノ遠因ヲ求ムルモ不可ナラズト云フベキ歟 サレバ蓮祖御出生ノ本懐ハ正法ノ種子ヲ心田ニ下シ元品ノ無明ヲ滅除スルニ在サバ則チ梵鐘ノ妙音モテ毒鼓ノ結縁ニ擬サント此度鐘楼ノ建立ヲ発願 恩師大平宏龍先生ニ小衲ノ微志ヲ詠メン事ヲ索ムルニ快ク之ヲ諾シ梵鐘ニ刻セル眉山ノ歌ヲ下賜サレ給フ 然レバ此処ニ檀信各位ノ協力ヲ得テ堅牢優美ナル鐘楼一宇ノ完成ヲ見ルニ至レリ 是ノ浄業以テ宗祖御生誕ノ大恩報謝ニ擬シ奉ル

爰ニ謹ミテ大本山本興寺御貫首小西日遶猊下ヲ御導師ニ屈請シ尊聖各位ノ御臨席ヲ仰ギ 檀信徒中挙ゲテ宗祖日蓮大聖人聖誕八百年慶讃御報恩ノ大法会ヲ厳修シ奉ル 冀クハ是ノ梵音眉山ニ木霊シテ遍ク法界ニ響キ渡リ一天四海皆帰妙法 天下泰平 人心安寧ノ所願ヲ成就セシメ給ハンコトヲ 重ネテ祈ラクハ浄財喜捨ノ面々各々身体勇健ニシテ愈々大法護持ノ信力ヲ起シ祖先追孝 子孫繁栄 現當二世ノ大願ヲ決定円満ナラシメ給ヘ 尚余慶ノ功徳ヲ以テ祈ル処ハ鐘楼建立ノ施主故星合之代殿事薫香院妙隆日祥大姉霊位 総而者星合家先祖代々之諸精霊等各々ニ大菩提ノ仏果ヲ証センコトヲ

本門八品上行所伝本因下種之南無妙法蓮華経

當山第二十三世 沙門 盛龍 敬白

正隆会 春のウォーク

音羽護国寺と六義園を巡って

当住上人徒弟 中村孝之

月光殿の前にて

当山の山門をくぐると最初に目に入るのが、木立の間に佇む妙壽寺の客殿。その姿は、正面に重厚な瓦葺屋根を持つ武家屋敷形式の大玄関を持ち、全面に板ガラス戸が配された、時代を感じさせる木造の2階屋である。この建物は、大僧正日照上人の時代（昭和2年）に、麻布飯倉狸穴町の旧佐賀藩蓮池鍋島家の邸宅が移築されたもの（「妙壽寺客殿―旧鍋島邸について―」：世田谷区指定有形文化財指定記念誌より）とのこと。今回は、当時、この妙壽寺客殿とともに麻布飯倉狸穴町の蓮池鍋島家邸宅を構成し、その後、妙壽寺客殿と同時期に護国寺に移築された建物の見学がテーマの一つであった。

当日は、雨模様の予報が嘘のように、時折薄日が差す穏やかな好天に恵まれた。

午前10時に護国寺の仁王門（表門）前に集合、護国寺の伊澤元祐・三浦紳盛・板子裕幸三上人の説明を受けながら不老門、多宝塔など境内の建物を順に見学。目的の建物は、護国寺の国指定重要文化財の一つである月光殿（滋賀県三井寺から移築された日光院客殿）に付属する建物として、中庭を囲むように配された複数の平屋の建物であった。玄関は妙壽寺の大玄関とともよく似ており、建物内の所々にも妙壽寺客殿と同様の細工が施されている。麻布飯倉狸穴町にあった当時、これらの建物が妙壽寺客殿とどのように繋がっていたのか、想像を掻き立てられながら見ていると、最後に通されたのが月光殿であった。護国寺の公式行事を除き普段は非公開だが、三吉ご住職畏友の根岸先生（護国寺ご同宗 養福寺（日暮里）ご住職）のご紹介ということで、特に、今回の見学コースに入れてくださったようである。

月光殿は、西暦1600年頃の桃山時代に創建された、初期書院造を現代に伝える代表的な遺構として有名な建築で、一の間の床（トコ）にある壁画は創建当時に描かれたものらしい。豊臣秀吉が天下を収めて権勢を誇っていた時代に描かれた水墨画を目前にし、長い時の繋がりを感じた。

昼食後、都内随一の人気を誇る花見の名所「六義園」へ向かい、満開には少し早い蕾みの枝垂れ桜など季節の花々を鑑賞し、庭園を巡った。

今回も新たな感動を覚えたウォークとなった。

「麻布狸穴」と刻印された電気の商標プレート

護国寺見学によせて

妙壽寺客殿保存会委員・こうだ建築設計事務所代表
三浦清史

護国寺 月光殿

見学する護国寺「月光殿」は、元来は園城寺の塔頭日光院の客殿で、明治維新で廃寺となったのを機に、明治25年、東京品川御殿山の原六郎[註1]邸に移築され慶長館と呼ばれていた主殿造の遺構です。その後、昭和3年、高橋義雄[註2]（箒庵（そうあん））の護国寺を茶道の総本山にしようという構想のもとに現在の地に移築され、重要文化財に指定されています。

護国寺 小書院・客殿（旧蓮池鍋島家住宅）

現在、月光殿へのアクセスとなっている附属建物が、実は妙壽寺客殿と同じように、狸穴の蓮池鍋島家住宅から移築された建物であると、最近知って驚いています。それを教えて下さった世田谷区教育委員会文化財資料調査員の佐藤明子さんからいただいた文章を以下に紹介します。

「護国寺小書院と客殿は重要文化財月光殿の東側に付属して建てられる建物で、月光殿の玄関として利用されている。『重要文化財護国寺月光殿（旧日光院客殿）保存修理工事報告書』には、境内の歴史的建造物の一つとして「小書院麻布狸穴鍋島邸（蓮池家）の玄関部分(明治37年、昭和3年護国寺に移築)」と記されている。護国寺では移築に際しての詳しい経緯は把握していないようであるが、棟札があり、瓦に鍋島家の家紋「抱き杏葉」が見られること、玄関脇の外部に面した柱に「麻布狸穴」と刻印された電気の商標プレートが打ち付けてあることなどから鍋島家から移築された建物であると認識している。前掲の図書には「護国寺慶長館及書院平面図」（護国寺蔵青焼図）が掲載され、月光殿（慶長館）と旧鍋島邸の移築時の建物が描かれている。現況と比較すると月光殿への渡り廊下、北側の台所や便所に増改築がみられるが、ほとんど移築当初と変わりなく現存している」

往時、妙壽寺客殿と護国寺の小書院・客殿が、狸穴でどのように併存していたのかは定かではないようで、それを明らかにすることがこれからの課題だろうと思います。

註1：原六郎（天保13年～昭和8年）は幕末から大正期の志士、軍人、銀行家、実業家。但馬国佐中村（現兵庫県朝来市）出身。もとの名は進藤俊三郎長政、生野の変で敗れた後、原六郎と改名。

註2：高橋義雄（文久元年～昭和12年）は実業家。前橋の商人下村善太郎の援助で明治20年渡米。ヨーロッパを回り帰国後、三井銀行に入社。三井呉服店（三越）に移り、三井家の重役として経営の近代化に努めた。王子製紙の専務を最後に50歳で実業界を引退、以後は茶道三昧の生活を送り、茶人高橋箒庵としても知られる。

「妙壽寺客殿保存会」基金寄付のお願い

世田谷区指定文化財「妙壽寺客殿」は、区とともに次代に継承していくためには、客殿を使い続け、適切な維持管理が必要です。

一口10,000円、ご寄付は何口でも受け付けます。
檀信徒の皆様のご協力を期待します。